

原発事故 10 年、コロナ禍の福島の子どもの声 2021 年調査の自由回答欄にみる 福島県中通り親子の生活と健康¹

成 元 哲
牛 島 佳 代
松 谷 満

1 ターニングポイントとしての 2021 年

2011 年 3 月の東京電力福島第一原発事故で、放射能への不安を抱える日々を送った福島県内の住民らが、新型コロナウイルス禍の暮らしを事故当時と重ね合わせている。見えない放射能とウイルスへの不安、感染者や流行地域への差別的な考え、中止された子どもの行事。福島子ども健康プロジェクトが、原発から 30～90 キロ圏の子どもの持つ親を対象に実施したアンケートに寄せられた回答用紙から、当時のつらい記憶を思い出す人々の姿が浮かび上がる。

本稿の目的は、2021 年 1 月に実施した「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」（以下「本調査」）の自由回答欄に記された福島で子育て中の母親（保護者、以下同様）の声を項目別に分類し、10 年が経過した東日本大震災・福島原発事故の後の生活と健康の移り変わりを記録として残すことにある。

「福島子ども健康プロジェクト」は、福島県中通り 9 市町村に住所のある 2008 年度出生児² 及びその母親を対象に、2013 年から毎年 1 月に、それぞれ、およそ 15 頁もあるアンケート調査を郵送で実施している。本調

査は、「自主避難区域³」とされる福島県中通り9市町村において、親子の生活と健康がどのように変化していくのかを定期的に記録し、次の世代に伝えていくことを目的としている。そのために、本稿は自由記述を読み取り、項目別に分類し、なるべく網羅的に取り上げることによって、原発事故後、この地域で子育て中の母親が日常生活で感じていたことを記録として残そうとしている。

2021年1月に実施した第9回調査においては、「東日本大震災・福島原発事故から、まもなく10年になります。今の心境を率直にお書きください」という自由回答欄のリード文に、2021年4月30日の時点で回答総数679名のうち、365名が自由記述を記入している。2021年調査の自由回答欄には、これまで同様、多種多様な意見が寄せられているが、その声を分類する際は、2020年までの項目とは異にしている。それは、「今は原発よりコロナが大変」という声に代表されるように、自由記述が大きく変化したからである。

2021年は子どもたちが小学校を卒業し、中学生となる年であり、原発事故から10年とコロナ禍の影響が重なった年でもあった。こうしたことが影響したせいか、自由記述の内容も大きく変化した。そこで、今回は、①コロナに関する言及、②原発事故当時や原発事故後のこれまでのふり返り、③現在の心境を語る、④原発事故の風化、⑤子どもの健康影響、⑥東電・行政への不満・意見、原発の是非、⑦アンケート・調査への言及、⑧賠償・補償、⑨その他のカテゴリーに分類した。これらの分類項目ごとの意見及びその傾向を記述し、最後に、全体の傾向や変化を踏まえた考察を行う。

本稿で取り上げる第9回調査の自由回答欄の声は、2021年1月の調査時点での意見であり、その後、こうした意見や状況が変化している可能性がある。また、ここでの自由回答の掲載方針について示しておきたい。

第1に、上記の分類項目に該当する意見をなるべく網羅的に掲載するようにした。ただし、個人が特定できる情報は掲載を見送った。具体的には

市町村名、大字名の単位では個人が特定しにくいので掲載するが、それより小さい単位は掲載を見送った。その場合は、同じ趣旨の意見で個人が特定しにくい意見を掲載した。

第 2 に、自由回答欄の意見は基本的に手書きであり、誤字・脱字も多いが、文意を損なわないように修正を行っている。

まず、これまでの調査における回答総数と自由回答記入数・率、文字数、一人当たりの文字数は、下記の通りである。

	回答総数 2021/4/30 時点	自由回答 記入数	記入率	文字数	一人当たり 文字数
第 1 回調査	2,628	1,203	45.8%	252,047	209.5
第 2 回調査	1,606	718	44.7%	153,938	214.4
第 3 回調査	1,209	746	61.7%	151,677	203.3
第 4 回調査	1,021	612	59.9%	117,171	191.5
第 5 回調査	912	549	60.2%	100,690	183.4
第 6 回調査	832	451	54.2%	82,812	183.6
第 7 回調査	805	440	54.7%	84,872	192.9
第 8 回調査	725	377	52.7%	69,601	188.1
第 9 回調査	678	365	53.8%	75,340	206.4

次に、自由回答分類とその数であるが、これらは、筆者と福島子ども健康プロジェクト事務局のメンバーが読んで分類し、数えたものである。したがって、分類とその数は、読み手の主観的なものであることを予め断っておきたい。また、項目の間に重複もある。2021 年の大きな変化を捉えるために、自由回答の全体像を示した。括弧内はすべての自由回答数に対する割合である。

自由回答分類	件数 (%)
(1) コロナ	173 (47.4)
ストレス・不安・心配	44 (12.1)
行動制限	40 (11.0)
原発よりコロナが大変	29 (7.9)
事故後の生活と重なる	26 (7.1)
収束を願う	15 (4.1)
差別・偏見	6 (1.6)
保養の中止	5 (1.4)
その他 (原発事故後の福島に思いをはせてほしいなど)	9 (2.5)
(2) 事故当時をふりかえって	165 (45.2)
事故当時や事故後の生活について	78 (21.4)
子どもたちに伝えていく	34 (9.3)
自身や家族の近況	24 (6.6)
10年たっても何も変わっていない、復興が進んでいない	15 (4.1)
復興を実感、復興を願う	11 (3.0)
迷い・葛藤	3 (0.8)
(3) 現在の心境	116 (31.8)
現在は前向きな気持ちでいる	36 (9.9)
不安はなくなった、精神的に安定した	25 (6.8)
悲しい、苦しい、不安、気持ちが沈む	11 (3.0)
子どもたちが元気で幸せな未来を願う	10 (2.7)
その他	34 (9.3)
(4) 風化	114 (31.2)
自身が忘れていく／話題にならなくなった	40 (11.0)
コロナで事故が忘れられている	28 (7.7)
風化させたくない・風化が心配	25 (6.8)
その他 (他地域の無関心、もう忘れてもいいのではなど)	21 (5.8)
(5) 子どもの健康影響	64 (17.5)
子どもの将来の健康不安	53 (14.5)
子どもの現在の健康不安	11 (3.0)
(6) 東電・行政への不満・意見、原発の是非	39 (10.7)
(7) アンケート・調査への言及	33 (9.0)
(8) 賠償・補償	32 (8.8)
(9) その他	62 (17.0)

2 コロナ禍の生活

コロナに関する言及は実に多種多様であるが、大きく「不安」、「差別・偏見」、「温度差・考え方の違い・分断」の三つに分けられる。具体的な分類においては、ア「ストレス・不安・心配」、イ「行動制限」、ウ「原発よりコロナが大変」、エ「事故後の生活と重なる、事故後の生活と比較して」、オ「収束を願う」、カ「差別・偏見」、キ「保養の中止」、ク「その他」の 8 つに分けた。

ア ストレス・不安・心配

- ・ 原発事故から、やっと心の平和がおとずれてきたと思ったら、今度はコロナで世界中が不安でいっぱいです。私はまだ健康ですが、母や子供がコロナによって健康ではいられなくなるのではないかと不安が常につきまといまいます。ある意味、原発の時より、今のほうが不安が大きいかもかもしれません。
- ・ 大きな災害後、つらい時期を耐えて 10 年。ようやくここまで来たかと思えば、新型コロナウイルス。生きるとは、耐える事なのか。絶望的とまでは行かないが、光が見えているとも思えず。
- ・ 子供の成長をみていると、原発事故を少しずつ忘れていくきがします。特にコロナ禍によって、忘れられていっている気がします。子供達と共に自由に動くことがとても苦痛で、行動範囲を制限され、ストレスがたまることがあります。（中略）原発のことも現在のコロナのことも早く落ち着くといいなあと思っております。
- ・ 無意識のうちにでもいつも何か不安がある、という点が似ているかなと思います。先が見えない不安、目に見えず何が正しい情報なのか分からない、という点も似ています。
- ・ どちらもはっきりと収束しないのも、不安に感じる。
- ・ 原発から 10 年、今までいろいろな不安、最近では風化してきたがこんど

はコロナ。二重の不安。完全にコロナがなくなるのはいつなのか？

- ・どちらも自分ひとりが気をつけようと思っても見えない力にはどう戦っていいか分からない。

イ 行動制限・行事の中止

- ・我が家は震災でそれほど大きな被害を受けた訳ではないので、今回のコロナの影響の方が、実生活に響いていると感じます。学校が休校になったり、活動に規制がついて、見合わせる行動がとでも増えました。
- ・コロナ禍の中で、修学旅行も行ったもののいろんな制約がありかわいそうでした。4月には、鼓笛パレードも中止でした。運動会も走るだけのかけっこ大会になってしまいました。思い出がない（少ない）ということに本人はとでもさみしい思いをしていると思います。子どもが子どもらしく生活できる日が早くくるといいなと思っています。
- ・生活するだけでの範囲を縮小したり、我慢をさせたりが多く、心の安定が計れているか親としてとても不安。
- ・より慎重に行動したり、他人の意見や人の目をいつも以上に気にする。
- ・原発事故後は、外での行動の制限。コロナ禍では、室内や人の集まる所への外出制限。
- ・原発事故の時は保養に行くことで気分転換ができたが、今は感染のリスクを考えるとどこにも出かけることができず、ストレスが解消されない状況。
- ・子ども達の学校行事が中止になってばかりで、残念でなりません。
- ・子供の成長とともに、震災の記憶がよみがえる時と、忘れている時と、二極化しているように感じます。現在はコロナ禍の生活で、制限がある生活となった時、震災後の原発事故による影響があった時期と、とても似ているなあと感じました。原因は異なっても、制限のある暮らしは、普通の生活より少し窮屈で、息苦しさも感じます。

ウ 事故後の生活と重なる

- ・マスクやペーパー類、消毒液、保存の効く食品などが、お店の棚にない光景を見た時や、並んで購入する光景が 10 年前のあの頃と重なって気持ちがザワザワした。怖くなった。先が見えない不安感が続いた。周りの友人、知人もやはり同じ心境であることを知って、自分ひとりじゃないんだ、という気持ちで持ちこたえた。考え方の違い、認識の違いが人それぞれであることも重なる。
- ・重なることは、友人、職場、親族と危険度合いに対する考え方の違いと、それによる違和感、感情の対立。本当に対立しなければいけないものは放射能とウイルス。
- ・感染（汚染）がより広がっている方が常に立場が下にあり、ばい菌扱いされる現実を今回も目の当たりにした。（中略）放射能問題もコロナも、人々を分断させるなあと思いました。

エ 原発よりコロナが大変

- ・放射能を気にしていたことも忘れてしまう程のコロナ。目に見えぬものといつまでかかるのか、不安です。
- ・今は原発よりコロナ。誰も東日本大震災を忘れようとは思わないが、いつまでも被災者ではられません。
- ・除染もおわり学校生活ももとどおりになってきた矢先のコロナ禍。原発事故よりしまりが悪い。どこにも逃げようがないから。

オ 収束を願う

- ・震災の時も、今のコロナ時も、外で自由に出来ないことが子供たちにガマンをさせているのが気になります。自分たちの子供のころのように、早く安全で遊ぶ事、友達とマスクなしで話したり出来る時代が来てくれる事を願っています。

カ 差別・偏見

- ・何より、この1年ほどはコロナが流行していたので、被曝者として差別される事は減りましたが、それに変わり、コロナを患った方を差別する報道を見聞きするのが多くなり、それはまた当時を思い出し、気持ちの良いものではありませんでした。何が起きても、いつまでたっても、人を差別しようとする人々はやはりいて、何を経験しても変わらない人々がいる事が虚しく感じた一年でした。
- ・放射能がうつるとかデマが流れて他県に福島ナンバーで出かける嫌な思いをするということがたくさん聞いて、県外へ出ることをやめたり、安全を求めているいろいろ出費をしたりしたことが思い出される。(中略) 福島が嫌がられていたように今は感染の多い地域が嫌だなあとと思う事があり、原発の時と逆になっている自分が少し嫌になる。
- ・原発事故の時は、福島が非難されたり差別の問題がありましたが、コロナ禍では逆に関東圏の方が福島に来ないでほしいという状態が重なる。
- ・福島の人達は原発事故の時にいわれない差別を受け、悔しく悲しい思いをしたのに、コロナ患者へ同じような差別をしているのを見聞きし、悲しい気持ちになった。
- ・コロナは感染するもの、放射能は感染しないものなのに当時は福島というだけで差別やいじめ、バイキンあつかいをされたという話をよく聞いたのを思い出した。
- ・「東京の人にこちらの地域に来てほしくない」と思った時に、ああこの感覚を当時の人は抱いていたんだと、妙に納得しました。状況が変われば、自分もそちら側(避ける側)になるんだ、ということを感じました。当時は「(避ける人を)許せない」と思っていました、今となっては仕方がないとも思った。
- ・原発事故時は福島県、郡山など地域的差別だったので差別や風評被害はあまり感じることはありませんでしたが、コロナになった場合の差別への不安ははかり知れない恐怖を感じる。

- ・ 差別やいやがらせについては、どちらもダメだと思います。自分が感染したら、こわい（周囲の目や仕事への影響、差別）と思います。

キ 保養の中止

- ・ 今年はほとんど保養に出ることができませんでした。コロナ禍においては、「保養なんて何考えてるの！」といわれるのではないかと口に出すのもためらわれ、実際主人の勤務先からは、本人、家族が県外に行った場合は数日間は欠勤して体調観察をしてほしいというお願いもありました。もちろん、コロナウイルスは怖いし、今は皆で協力して感染拡大を防ぐのが大切だと思います。ただ一方で、保養は大切じゃないの？（中略）という不安な気持ちもあります。保養は親である私にとっても大事な場です。
- ・ 保養が中止になり、交流の場がなくなった。
- ・ 原発事故後は保養として遠方に出かけて外遊びさせる等の工夫ができたが、コロナ禍ではどこに行っても心配がつきまとう。

ク その他

- ・ 小学校最後の 1 年の大切な行事が何もかもなくなりました。またしても「人災」によって、子ども達の自由が奪われ、我慢を強いる生活になりました。震災後と同じです。今回違うのは、日本中、世界中の人が、国が、「ちゃんと」大騒ぎして、何とかしないと！と思っていること。原発事故後、はたしてそうだったか。福島人は、「震災のときと同じだ」と、ある意味とても冷静に毎日を過ごしていると感じます。“自分の命は自分で守る”これは 10 年前に学んだことであり、コロナ禍でもその意識は生きています。日本中の人々が、コロナ禍での大変さや辛い経験から、原発事故後、福島県民が同じ感情で必死に毎日生きていたということに、思いをはせてくれたらと思います。

3 事故当時をふりかえって

原発事故当時や原発事故後の生活のふり返りに関する意見は、ア「事故当時や事故後の生活について」、イ「子どもたちに伝えていく」、ウ「自身や家族の近況」、エ「10年たっても何も変わっていない、復興が進んでいない」、オ「復興を実感、復興を願う」、カ「迷い・葛藤」の6つに分けられる。

ア 事故当時や事故後の生活について

震災から10年経った今も、当時の出来事を鮮明に思い出すという声が多く見られた。

- ・震災から、まもなく10年です。普段は忙しくて考える余裕がありませんが、改めて振り返ると、感慨深いものがあります。あの時、二歳の誕生日間近だった娘は、もうすぐ小学校を卒業します。一昨日は、中学校の制服の採寸に行ってきました。(中略)ここまで歩んでこれるとは、あの頃は全く想像していませんでした。前を向いて一日一日を積み重ねた日々が、今日につながっていることを切に感じます。ストレスが多く変化に富んだ時代ですが、目の前の課題に集中し課題を一つ一つクリアしていくことで明日につながったように思います。
- ・私の居住地には津波は来ませんでしたし、地震の被害もそれほど大きくありませんでしたが、当時の映像を見ると、夜中パトカーや消防のサイレンが鳴り響き、しょっちゅう余震があったことを思い出します。夫は警察官で、震災の日から数日間、帰宅することなく原発がある近隣の地域で検視の仕事をしていました。夫が不在の中、まだ小さかった子供たちとの不安な日々を送ったことを、10年経っても忘れられません。
- ・地震の時泣きわめき抱っこして避難した日は今すぐにでも思い出されるくらいこの前のことです。今、あの時のことがあってもみんなで乗り越

えられると思うくらい子どもたちに支えられております。毎日大変で壁ばかりで心がしずむこともあります。今度は、コロナ禍と思いますが原発も終わったわけではない、複雑です。それでも子どもたちと日々を暮らしていかななくてはいけないと思っています。

- ・ 10 年前の震災の日、家の中はガラスが割れ、食器棚も冷蔵庫もたおれ、水道も何日も出ず、大変だったこと、子供のために避難するか、しないか悩み続けた日々、避難先で生活が安定するまで苦勞したこと、すべてがこれからの人生の糧となってほしい。社会の基本である家族の絆を強め、これからも穏やかに生きていきたいと思っています。
- ・ 10 年前を思うと、福島市も内陸部でしたが大きな被害がありました。マンションタイプの賃貸 4 階に住んでいましたが、家の中はめちゃくちゃで、テーブルが上下さかさまにひっくり返っていて、部屋中、ガラスだらけになっていました。玄関のヒビ割れは外にまで貫通し、エントランス外側の階段が地盤沈下で 1 段多くなっていました。場所取りをしていて、立っている場所もない程、混雑している中、泣いてしまう娘と、いる場所がなく、自宅に戻り、部屋の一角に身を寄せていた事が、コミュニティの重要性を感じる経験となり、地元ではなかったのですが自宅を持つきっかけとなりました。
- ・ 3.11 から 5 日後に福島を離れ、点々と避難をした生活、本当に幼い子ども 2 人をつれては不安と苦惱でした。それは私には、忘れる事のない記憶です。でも、今の娘をみてその大変さもむくわれた気持ちがしています。年月たち、その時々でふり返ることもあると思います。その時は、真っすぐにまた伝えていきたいと思います。二度と起こってほしくない大震災。でも、どうなるかは分からない未来。今ある何気ない生活が、いかに幸せかを忘れないようにしていきたいです。

イ 子どもたちに伝えていく

当時、小さかった子どもたちも成長し、考える機会が増えた。大事なこ

とを忘れないよう伝えていきたい、困難に直面しても自ら立ち向かってほしいと願う意見が多く見られた。

- ・ 良い意味でも悪い意味でも、10年前の経験はしっかりと子どもたちに引き継いでいかなければならないと思っています。今年はコロナウイルスによる感染症や大雪災害など、あの時の地震や原発事故とはちがうけれど、考え方や対応方法（自分で守ることと、近所の人とのたすけあいの気持ち等）はかわらないと思いますので、子どもたちにしっかり伝えていきたいです。
- ・ この10年の節目で震災の映像を子どもたちと一緒に見るのが多くなりました。子どもたちが震災について考えることができるようになり、どのようなことが起こっていたのか、そしてどうなっていったのかを忘れてはいけないということを子どもたちにも伝えました。当時と現在とで、時とともに心境は大きく変わりました。心の片すみで原発のことを考えつつも普通の生活に戻っていることで以前に戻ったということだと思います。当時も現在も何が一番よいのかというのは分からないままですが。
- ・ 現在は前向きに子供と2人楽しい生活をしています。原発事故でもコロナでも同じことは「生きる」ことに前向きで、自分に厳しくポジティブになることが大事であり、人への感謝をすることと思います。何があっても負けてはいけないのですと伝えていきたいです。
- ・ 震災の時も感じた苦しさをまた少し感じながら生活しています。でもその反面、家族との時間が増えて、一緒にいれる事がとても幸せです。生きる事、命に向き合う事、自分を支えてくれる人が誰なのか、そばにいてくれる人は誰なのか、何が本当に必要な事なのか物なのか、はっきりと分かってきます。震災の時もそうでした。子供達にも本当に大切な事、生きるすばらしさ 伝えていけるとと思います。震災の事もコロナも大きな事が起こって、でもそれをプラスに変えていける力があると信じ

て頑張っていこうと思っています。

- ・コロナ禍の今、より一層放射能について、風化が進んだ気がします。でも、風化が進めば進む程、しっかり後世にも伝えていかなければならない出来事だとより考えさせられます。
- ・震災後に初めて原発近くの国道を走り、子供にその風景を見せ、一緒に車内で話し合う事ができました。少し刺激的で怖いと思った所もあったはずですが一緒に訪れて良かったと思っています。

ウ 自身や家族の近況

現在も苦しさを感じておられる方や、生活の変化を感じられた方、元気に暮らす方などの暮らしぶりに関する声が見られた。

- ・家族 4 人で病気もケガもなく、生活してこれているので、幸せだと思います。ゆとりのある家計とは言えませんが、仕事もあり、毎日笑顔で子供達と過ごしているのので、幸せです。子どもも 4 月からは、中学生となります。毎日、元気に頑張っしてほしいと思います。
- ・震災後、自主避難対策で貯金を使い果たし、コロナをむかえ職を失い、収入が減り借金をしての生活が始まった。自主避難している人や、避難区域の人の支援はもういないから、その分一律に支援してほしい。コロナのせいで体調不良なのか、原発事故のせいで不調なのか、わからない。

エ 10 年たっても何も変わっていない、復興が進んでいない

不安な気持ち、汚染物の処理など解決できていないことがたくさんあるという声が見られた。

- ・早く感じますが、まだまだ戻っていないコトばかりです。元々の形に戻るコトが出来ない事が、淋しく感じます。
- ・あつという間の 10 年だったように思う。子供の誕生、親の死、自分の心の乱れ等、色々あったが、原発の姿は何も変わっていないような気が

する。今でも原発事故直後の何ともいいようがない不安や、地震に対しての恐怖心は忘れられない。

オ 復興を願う

- ・ 大変な事が起こったんだと今でも感じる。増え続ける汚染水についても不安であるが、明るい未来があると信じている。
- ・ 今でも地元の復興に向けて頑張っていますので、少しずつでも前に進んでいける様応援していきたいと思います。

カ 迷い・葛藤

- ・ 毎年放射能の事を忘れようとした気持ちと子供の為に気をつけたほうが良いのではないかと迷いながら生活しています。

4 現在の心境

現在の心境に関しては、ア「現在は前向きな気持ちでいる」、イ「不安はなくなった、精神的に安定した」、ウ「悲しい、苦しい、不安、気持ちが沈む」、エ「子どもたちが元気で幸せな未来を願う」、オ「その他」の5つに分けられる。

ア 現在は前向きな気持ちでいる

- ・ コロナ禍の状況を落ち着いて動じることなく家族で切り抜けていけているのは、間違いなく震災の経験のおかげです。過ぎたことを不安に思っても仕方がなく、これから先に向けて今何をするべきか、ということを常に考えさせてくれています。
- ・ 生きる事、命に向き合う事、自分を支えてくれる人が誰なのか、そばにいてくれる人は誰なのか、何が本当に必要な事なのか物なのか、はつきりと分かってきます。震災の時もそうでした。子供達にも本当に大切な

事、生きるすばらしさを伝えていけるとと思います。震災の事もコロナも大きな事が起こって、でもそれをプラスに変えていける力があると信じて頑張っていこうと思っています。

- ・ 歴史の転換点で成長していく子が笑って幸せに過ごせるように全力で応援するのみです。私が楽しく生きる姿が一番身近なロールモデルになるので、私が人生を謳歌しようと考えています。
- ・ 子供は、当時のことは覚えていないと思います。コロナもそうですが、こんなことが現実におこるのだろうかと思うような体験でしたが、不安を感じながらも人は強く生きていけるものだと思いました。震災があったからこそ、自分の価値観は変わったのだと思います。今は、悪いことだけだとは思っていません。
- ・ 今も家族の方が見つからないなど、心苦しい方もたくさんいる中で、普通の生活ができ、子供の成長を見られていることは、ありがたいと感じます。大好きな福島で家族と共に過ごしていきたいと思っています。

イ 不安はなくなった、精神的に安定した

- ・ ようやく日常的な放射線の恐怖から抜け出した。忘れられるようになってきたように感じる。実際は、これからの未来どうなるかは分からないが、普通に生きていてもガンにもなるし、他の病気にもなるし、事故でも死ぬかもしれないので、放射線の影響のようにジワジワと姿を表すものは、普段のリスクと変わらないように思えてきた。だからといって、故郷福島の姿を変えてしまった原発を許すわけにはいかない。これからは、忘れないように、振り返ったり、まだ元には戻らない地域の応援ができたりしたらと思います。
- ・ 除染も終わり、以前とほぼ変わらぬ生活を送れています。家族がこのまま病気をせず、健康で幸せに暮らしていきたいです。
- ・ 10年前は、現在の様なおだやかな暮らしは想像できませんでした。お陰様で放射能の影響なく毎日を過ごしています。ただ、現在でも自主避

難をされ、福島を離れてしまった方も多くいて、地元に残る人、避難する人を分断する悲しい事故だったなと思う。

- ・時とともに私自身の震災の不安は、だいぶ整理されて受け入れてもらえるようになりました。

ウ 悲しい、苦しい、不安、気持ちが沈む

- ・フクシマと表現されるのが悲しい。
- ・最近10年をむかえていろいろ特集などがありますが、今の復興した様子はみたいけど、当時のひなんの様子などは、個人的には悲しい気持ちになるのでみたくないかなと思っています。
- ・原発事故のせいでこんなに何年も苦しむとは思っていませんでした。東電に人生をメチャメチャにされた人が何人もいることを分からせてやりたいです。
- ・この不安からは一生はなれられないという不安があります。
- ・まもなくあの事故から10年になりますが、本当に安心して生活しているのか気になるのは変わりません。(中略)福島県の中通り、浜通りにいるうちは、ずっとこの気持ちは変わらないかもしれません。今頃まで考えているのは私くらいかもしれませんが、まだ怖いんです。できるなら、子供が大きくなって家を出たら、私も別な土地に住んでストレスがない生活をしたいです。

エ 子どもたちが元気で幸せな未来を願う

- ・子どもたちの明るい未来を、もうこれ以上奪ってはいけなと思います。この先、子どもたちが少しでも幸せだ！と思える瞬間が、あることを願うばかりです。

オ その他

- ・まもなく10年目になりますが、新型コロナウイルス問題もあり、少し

忘れかけていました。東日本大震災以外にも、様々な自然災害が発生し、
自分の事として防災を意識するようになりました。

5 風化

ア「自身が忘れている／話題にならなくなった」、イ「コロナで事故が
忘れられている」、ウ「風化させたくない・風化が心配」、エ「その他（他
地域の無関心、もう忘れてもいいのではなど）」の4つに分けられる。

ア 自身が忘れている、話題にならなくなった

- ・ 原発やら大震災、そんなこともあったなレベルで生活しております。福島県を離れているから、なおさらそのように思います。
- ・ いつのまにか10年経ち、記憶からも少しずつ遠くなってきている。忘れてはいけないが、いずれ忘れてしまう時がくるのだなど。自分たちより大変な思いをされている方々は多くおられる。そういった方々のケア等をしっかりやっていただきたい。
- ・ 全てにおいて風化してきている（自分自身も）気がする。正直、考えることに面倒な気にさえなる。
- ・ 自分の中では完全に風化しており、大人同士で話題にする事はまずない。たまに子供と（幼かった為記憶がない為）当時の話をするくらい。現在のコロナ禍が強烈過ぎて10年前の事を思い出す余裕がない。3月になったら、「あれから10年」などと特別番組がたくさんやると思うのが絶対に観たくない。震災、災害、疫病はもうたくさんです…
- ・ コロナ禍がなければ、10年前のことについてもっと思いをめぐらせていたことと思いますが、正直、現在の関心はコロナ禍に移っています。それだけ、自分が震災・原発事故後から立ち直っているのか、と思う一方、風化の証拠かな、とも思います。
- ・ 正直、震災のことは忘れられないけれども、心の隅に置ける程気持ちや

状況に整理はできたとと思います。

- ・子供の行事ごとに保護者の確認（プール、マラソンへの承認等）は、続いています。街中の放射線の測定量にはあまり興味を示さなくなり、風化しつつあると考えます。

イ コロナで事故が忘れられている

- ・未だに原発の汚染水の問題は続いているのに、メディアでは、コロナ禍のニュース一色に染まってしまい東日本大震災や福島原発事故の意識が一気に薄れてしまった気がする。
- ・原発事故のことが自分の中でも風化しつつあるけれど、やはり今第一原子力発電所がどのくらい事故処理がすすんでいるのかと気になっている。（中略）今世の中はコロナウイルスのことでいっぱいなので、東日本大震災、原発事故のことを振り返る余裕ないと感じている。
- ・現在は、世の中がコロナで大変であり、正直、震災や原発事故について考えたり、話題になることは全くありません。私自身もあまり放射能の影響について心配したり不安になることもなくなりました。
- ・現在は、コロナの問題ばかりで、原発事故は消えかけているのではと不安に思います。毎日、コロナ、放射能と不安ばかりで、希望が持てなく感じます。10年だから終わりではなく、これからも風化することなくいてほしいと思います。
- ・コロナ禍のインパクトにより、原発事故への関心が薄れた気がします。
- ・コロナで原発の話題がうすれている気がします
- ・コロナの影響が大きすぎて、さらに風化している感じ。
- ・子供の成長をみていると、原発事故を少しずつ忘れていきがします。特にコロナ禍によって、忘れられていっている気がします。
- ・原発事故は風化していると感じます。今はコロナの問題が最優先なのでよけいにそうだと思います。
- ・話題がコロナに置き代わってしまっているように感じます。原発に関する

ることが、節目に当たる年であるにも関わらず、あまり耳にすることがなくなっているように感じます。

- ・ コロナ禍で震災の風化がとて早くなっている感じがします。
- ・ 世間全体がコロナ一色となり、原発事故の風化は増すばかり。
- ・ 東日本大震災があった3月になるとあの時のことを思い出しますが、今はコロナ禍で原発事故のことは後回しになってしまったように思います。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、原発事故や放射能問題はさらに風化されていると思います。私もコロナ禍の影響で、すっかり忘れていました。

ウ 風化させたくない、風化が心配

- ・ コロナ、コロナで大震災、原発のことは自分自身でも忘れていました。この時期になると、子供たちが学校で先生から震災の話を聞いてきたり、ニュースなどで特集であつかわれるので、思いだして子供たちと一緒に話し合ったりします。年に1回でも家族で、震災・原発の話をして、風化させないようにしていきたいと思います。
- ・ 風化しつつあるので、後世に残すような取り組みを実施してほしいと考える。
- ・ テレビで震災・原発事故のニュースを見ない限り、日々の生活で当時を思い出す事は少なくなっています。「こんな事があったんだよ。」という話は、当時を知らない、覚えていない子供達には話していますが、風化させない様に子供達に伝えていく事が今の私に出来る事だろう、そう思っています。

エ その他

- ・ 東日本大震災のことも、原発事故のことも他の地域に住んでいる方々は、すっかり忘れているのだろうかあと感じます。
- ・ きっとみんな忘れてる。覚えてるのは東北だけかな。

- ・もう、忘れていいのではないのでしょうか。コロナ、経済危機、将来の不安のほうが圧倒的に強いです。
- ・この10年、子どもが大きくなったのもあるし、もともと原発事故について認識のずれや気軽に話せる話題でもないので、風化していついると感じていたところに、各地での豪雨被害やコロナといろんなことがありすぎて、世の中、原発事故だけ特別なこととして捉えていないのではないかと思うようにもなった。もちろん、二度と起きてはいけない事として後世へ伝えていかななくてはいけないという意味では風化させてはいけない出来事ですが、人生で一度あるかどうかの災害があちこちで起きていて、原発事故による福島県民へのイメージや、意識が差別という意味では子ども達が大人になる頃には薄れていくのではないかと健康面での不安は親として消えることはありませんが、差別という不安がなくなればいいなと思っています。

6 子どもの健康影響

ア「子どもの将来の健康不安」、イ「子供の現在の健康不安」の2つに分けられる。

ア 子どもの将来の健康不安

- ・事故のことはもう風化してしまっているように感じますが、これからも子供の成長とともに影響が出ないだろうか、という不安はなくなるものだと思います。国には、これからも検査や相談体制を万全にしていってほしいです。
- ・今後子供達に身体的な影響が出ない事を願っています。
- ・これから先、私達の体、子供の体にどう影響が出てくるのか不安です。

イ 子供の現在の健康不安

- ・ 子供が現在具合が悪く学校を休んでいますが、風邪をひく度に原発の原因で、具合が悪いんじゃないかと、少し体調が悪そうにしていると原発の原因で具合が悪いんじゃないかと不安になってしまふ。
- ・ 息子が今までホールボディカウンターで検出なしだったのに今年になって検出されてしまった。ひんぱんに検査をしてほしい。

7 東電・行政への不満・意見、原発の是非

「行政への不満」、「東電への不満」、「原発の是非」に関する意見がみられた。

- ・ コロナのこともあり、日本の政治についても信頼できないと最近感じます。原発事故の汚染水の問題。廃炉までの長い道のり。国に任せても大丈夫かな？
- ・ 福島県のことも、またこの地球のことも、良くしていこうと本当に考えてくれているのかな。
- ・ 東日本大震災による福島原発事故は人災だと考えている。決して風化はさせたくないし、東電には認めてほしい。
- ・ 現実を受け止めて今を生きなければならないが、原発がない世の中は、絶対実現するべきだと思う。

8 アンケート・調査への言及

2013 年から開始した本調査も 2021 年で 9 回目を迎えた。原発事故から 10 年、そして対象の子どもたちが小学校を卒業したのを機に、年に 1 回の定期的な調査は終了することになっている。対象者の本調査に対するさまざまな思いがうかがえた。

- ・ 原発事故の風化が進む中、10 年もの間原発事故後の生活や健康につい

て調査をしていただきありがとうございます。

- ・ このアンケートに答える事で自分の気持ちに気づいたり整理できたりする部分があります。前向きなきもちになれるアドバイスシートなどがあると嬉しいです。
- ・ 「10年ひと昔」と言うように、震災から10年がたとうとしている今、原発事故も「昔に起きた事故」として皆の意識から薄れゆくものになっているように感じます。そう言う自分自身も原発事故に対して、恐怖や不安が薄れているように感じます。このアンケートが届くたびに、原発事故を思い出し、風化させてはいけないという気持ちになります。
- ・ 調査も途中でやめないで続けていってください。歴史の一ページにきざむように。

9 賠償・補償

「不公平感」、「もう終わりにしていいのでは」、「ほかに回すべき」などの意見がみられた。

- ・ 原発から近い所に住んでいた方への補償は十分あると思われませんが、この辺ではほとんどなかったに等しいです。同じ福島で、同じくらいのくらしを味わったのに不公平な気持ちは未だに変わりません。近所にひっこして来た（原発近くにお住まいだった方）は、豪邸で高級車を何台も持ち、とてもぜいたくしている気がします。
- ・ 東電の補償をもらっている人との格差が広がる一方です。もう、補償をやめて平等にしてほしいです。どっかの山に村（市）でも作って住んでほしい。復興と風化の言葉が嫌いで、ニュースで見ただけで気分が悪い。
- ・ 避難している方や漁業関係者などの方への支援は引き続きお願いをしたいが、それ以外の方はもう支援等は必要ないのでは？とも思います。事故による健康被害が出た時のみ保障していただければそれでいいと思

ます。

- ・ 今まだ震災被災者は医療費 0 円です。はっきりいって 10 年です。すでに新しい生活をしており、しっかりと仕事などもできるのではないかと思います。東電や国などにいつまでお金をもらい続けるのか。震災だけでなく、今はコロナのせいでみんな収入や生活がふあんになっているのに。いいかげん、被災者への補償を切って、コロナ対策にあてるべきではないかと感じます。
- ・ 岩手や宮城の被災者は自力で頑張っているのを見ると、どうしても比べてしまいます。避難民は何をやっているのだろうと。お金の出所はちがうのかもしれませんが、日本全国で自然災害で被災した方、コロナで日々の生活も困難な方、最前線でコロナと戦っている医療従事者に、そのお金を回せないものかと思ってしまいます。避難民ばかりが、優遇されているあいだは、私は彼らを『避難民』と呼びます。
- ・ 皆がもっと前向きな考えになってほしい。「住んでいた場所を元に戻して、自分たちも帰りたい」と言っている方の考えも分かるが、元には戻らない。どうやっても戻らない。だから、補償だの、金だのではなく未来に残していくため、その土地のためにお金を使ってもらいたい。（原発についてのこのような意見は、土地愛がある方には話せないのが、まだ 10 年かな）

10 その他

将来の差別や偏見への不安、情報に関すること、食品の安全性など、さまざまな意見が寄せられた。

- ・ 福島県で生きるのには不便ではありませんが、子供たちが将来県外に出た時に少しの不安があるのも確かです。風評被害がなくなる世の中になくなってほしいと願うばかりです。
- ・ 子どももいよいよこの春中学生となります。大きくなるのは早いです

ね。子どもがもっと大きくなり、やがて結婚を迎えるようになった時、原発の事で、相手の方々（両親など）に反対されたりとか、そういう問題が起きないか、と心配になる事はあります。

- ・ 東京電力福島第一原子力発電所での汚染水をめぐっての一連の取り組み、モニタリングポストの測定値は、地元の新聞では毎日取り上げられています。一步県外に出れば、ほぼ知ることのない情報ばかり。ここにも、ギャップを感じます。
- ・ 街の復興が進み、きれいになっても、子供たちの体への影響がわかるのはこれからのことだと思う。国民に不安を与えないように情報をかくしたり、非公表にするのではなく、正しい情報を流してほしい。甲状腺検査のことなど、県外に住む私たちには全くニュースとして入ってこないし、実態が分からないと思う。
- ・ 福島を離れて10年。父や母、祖父祖母に孫（ひ孫）の成長を近くで見せられなかったことは、やっぱり心苦しく感じることがあります。でも離れなかったら出会うことのなかった人たちに本当に助けられてここまでこれたと思います。本当に温かい人たちばかりです。今は、原発事故があったから今の私たちがいる、すてきな人たちにたくさん出会えたと思えます。10年前「あなたが後悔するなら行きなさい（避難）しなさい」と背中を押してくれた母にあらためて、「ありがとう」と伝えたいと思います。
- ・ 震災後10年になるが、県内産の食材は安全なのか、いまだに気になる。生産者の方や、PRしている人たちもいるので、あまり大きな声では言いにくい。
- ・ このまま原発事故に由来する病気などにはならず大人になってくれると思っています。将来何かの役にたつかもと考え、ガラスバッジの測定と甲状腺の検査は続けています。
- ・ 最近、近所の公園で埋めていた汚染土の取り出しがはじまった。工事がはじまるまで、すっかり忘れていた。子供は、公園の工事と思っている

ようで、汚染土のことも分かっていないようだ。

11 2021 年自由回答からみえてきたもの

原発事故から 10 年、その節目となる年は、新型コロナウイルスが世界を席卷した。連日、感染者数が報道され、原発事故後の生活を思い出す。コロナ禍の生活は原発事故後の生活と重なるという声が多く、行動制限、不安、差別、情報不信、温度差などに関する声が多く寄せられた。したがって、原発事故から 10 年が経過した福島県中通りの母親たちの声は、「今は原発よりコロナが大変」に代表されると言っているだろう。

12 アンケートからみる原発事故後の生活変化

原発事故後の生活変化には 4 つの傾向が確認できる。1 つめは、事故から 9 年近く経過した時点で、6 割以上が「あてはまる」（「どちらかといえばあてはまる」を含む。以下同様）と回答し、高止まり傾向が続いているのが「補償をめぐる不公平感」である。2 つめは、ゆるやかな減少傾向にある項目、「放射能の情報に関する不安」、「いじめや差別への不安」、「健康影響への不安」、「経済的負担感」、「保養への意欲」、「子育てへの不安」である。3 つめは、「あてはまる」が急激に減少し、その後、横ばいとなっている項目、「地元産の食材を使用しない」、「洗濯物の外干しをしない」、「避難願望」の 3 つの項目である。4 つめは、事故直後から該当者が少ないながらも、一定の割合で推移している項目、「放射能への対処をめぐる配偶者、両親、周囲の人との認識のずれ」である。

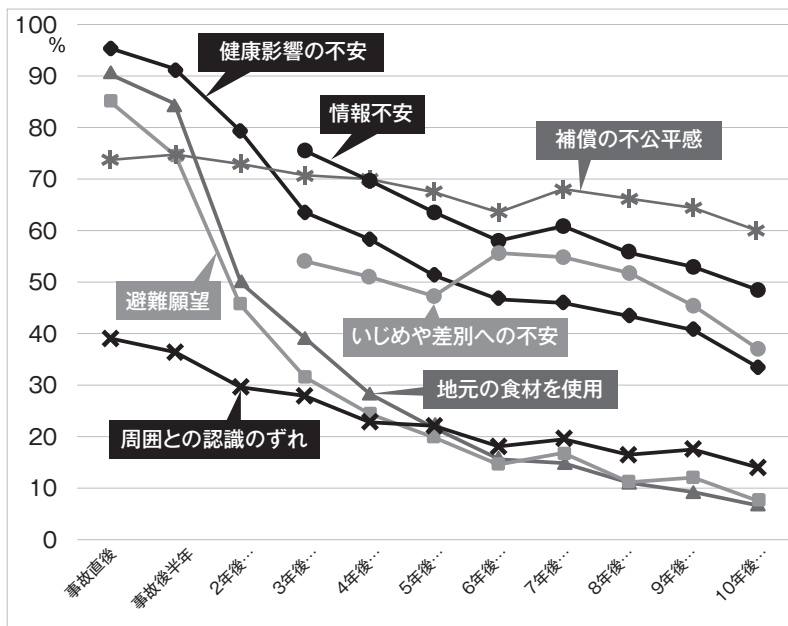


図 原発事故後の生活変化

最後に、自由回答欄に記入した人の「子どもからみた続柄」、「回答者が母親の場合」の年齢層と居住地の内訳を示した（2021年4月30日時点）。なお、「調査回答者」とはアンケート調査に回答した人を指す。

【続柄】

	第1回調査 (2013年)			第2回調査 (2014年)			第3回調査 (2015年)			第4回調査 (2016年)			第5回調査 (2017年)		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
続柄															
母	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02	528	868	60.83
父	11	33	33.33	22	71	30.99	36	65	55.38	27	49	55.10	19	41	46.34
祖父	0	1	0.00	0	0	0.00	1	1	100.00	1	1	100.00	1	1	100.00
里親	1	1	100.00	1	1	100.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
祖母	1	7	14.29	3	6	50.00	4	5	80.00	3	3	100.00	1	2	50.00
曾祖母	0	1	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
全体	1203	2628	45.78	718	1606	44.71	746	1208	61.75	612	1021	59.94	549	912	60.20
	第6回調査 (2018年)			第7回調査 (2019年)			第8回調査 (2020年)			第9回調査 (2021年)					
続柄	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
母	429	785	54.65	420	772	54.40	355	685	51.82	348	636	54.72	348	636	54.72
父	19	43	44.19	20	35	57.14	20	37	54.05	16	36	44.44	16	36	44.44
祖父	1	1	100.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
里親	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
祖母	2	3	66.67	2	2	100.00	2	3	66.67	1	2	50.00	1	2	50.00
曾祖母	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
全体	451	832	54.21	442	809	54.64	377	725	52.00	365	674	54.15	365	674	54.15

〔回答者が母親：年齢層別内訳〕

年齢層	第1回調査 (2013年) : 2585人			第2回調査 (2014年) : 1528人			第3回調査 (2015年) : 1138人			第4回調査 (2016年) : 968人			第5回調査 (2017年) : 868人		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
20代	161	462	34.85	55	158	34.81	29	77	37.66	16	41	39.02	8	25	32.00
30-34歳	411	919	44.72	207	505	40.99	189	311	60.77	119	216	55.09	75	153	49.02
35-39歳	432	852	50.70	260	543	47.88	281	420	66.90	225	366	61.48	195	319	61.13
40代	178	340	52.35	165	311	53.05	204	324	62.96	217	340	63.82	243	361	67.31
50代以上	1	1	100.00	0	1	0.00	1	2	50.00	3	3	100.00	6	7	85.71
無記入	7	11	63.64	5	10	50.00	1	4	25.00	1	2	50.00	1	3	33.33
全体	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02	528	868	60.83
年齢層	第6回調査 (2018年) : 785人			第7回調査 (2019年) : 772人			第8回調査 (2020年) : 676人			第9回調査 (2021年) : 636人					
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合			
20代	0	8	0.00	0	4	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00			
30-34歳	34	100	34.00	21	62	33.87	8	39	20.51	6	25	24.00			
35-39歳	152	277	54.87	132	250	52.80	86	180	47.78	53	131	40.46			
40代	230	381	60.37	257	435	59.08	236	431	54.76	257	434	59.22			
50代以上	10	13	76.92	9	20	45.00	24	32	75.00	32	44	72.73			
無記入	3	6	50.00	1	1	100.00	1	3	33.33	0	2	0.00			
全体	429	785	54.65	420	772	54.40	355	685	51.82	348	636	54.72			

〔回答者が母親：居住地別内訳〕

市町村名	第1回調査(2013年)			第2回調査(2014年)			第3回調査(2015年)			第4回調査(2016年)			第5回調査(2017年)		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
福島市	426	873	48.80	241	504	47.82	216	358	60.34	185	308	60.06	176	279	63.08
桑折町	22	34	64.71	13	21	61.90	10	18	55.56	7	12	58.33	5	12	41.67
国見町	15	27	55.56	8	12	66.67	4	10	40.00	6	10	60.00	3	8	37.50
伊達市	67	173	38.73	46	109	42.20	40	82	48.78	35	71	49.30	33	64	51.56
郡山市	462	1059	43.63	255	601	42.43	284	453	62.69	230	377	61.01	216	334	64.67
二本松市	79	169	46.75	48	105	45.71	46	69	66.67	37	66	56.06	32	60	53.33
大玉村	15	41	36.59	10	26	38.46	11	20	55.00	14	20	70.00	6	15	40.00
本宮市	55	123	44.72	30	76	39.47	41	54	75.93	28	44	63.64	22	40	55.00
三春町	12	34	35.29	6	15	40.00	4	10	40.00	5	10	50.00	4	8	50.00
9市町村外	37	52	71.15	35	59	59.32	49	64	76.56	34	50	68.00	31	48	64.58
計	660	2585	25.53	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02	528	868	60.83
第6回調査(2018年)															
市町村名	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	第7回調査(2019年)			第8回調査(2020年)			第9回調査(2021年)					
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合			
福島市	142	254	55.91	136	251	54.18	115	226	50.88	109	212	51.42			
桑折町	5	12	41.67	6	11	54.55	8	10	80.00	4	8	50.00			
国見町	3	6	50.00	4	7	57.14	2	6	33.33	5	7	71.43			
伊達市	24	58	41.38	21	52	40.38	18	48	37.50	20	39	51.28			
郡山市	176	296	59.46	169	301	56.15	151	262	57.63	146	238	61.34			
二本松市	25	56	44.64	25	50	50.00	17	46	36.96	17	43	39.53			
大玉村	7	16	43.75	6	16	37.50	6	15	40.00	4	13	30.77			
本宮市	17	35	48.57	18	33	54.55	14	29	48.28	13	32	40.63			
三春町	3	7	42.86	4	8	50.00	3	5	60.00	4	6	66.67			
9市町村外	27	45	60.00	31	43	72.09	21	38	55.26	26	38	68.42			
計	429	785	54.65	420	772	54.40	355	685	51.82	348	636	54.72			

- ¹ 本稿は、科学研究費助成事業（19H00614、15H01971）、トヨタ財団研究助成プログラム（D18-R-0325）の成果である。2021年調査の全体的な傾向は「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査報告書(2021年)」に掲載されている。「福島子ども健康プロジェクト」のホームページ（<https://fukushima-child-health.jimdo.com/>）の「研究成果」で、無料でダウンロードできる。まず、これまで毎年、この調査にご回答いただいている方々に深く御礼申し上げたい。また、自由記述の入力と分類、原稿執筆作業においては、福島子ども健康プロジェクト事務局の飯田彩乃さん、藤井和美さん、泉本久美江さん、内藤可奈誉さん、平野久美子さんに多大なご貢献をいただいた。記して御礼申し上げたい。
- ² 2012年10月から12月の時点で9市町村の役場で標本抽出を行った。その時点で、2008年度出生児は6191名。
- ³ 中間指針で「自主避難等対象区域」されたこの地域を選んだのはなぜか。この地域は、避難区域に隣接し、健康影響の不確実性が高く、事故直後から、放射線リスクの受け止め方も、避難、地元産食材の使用などリスクへの対処の仕方も多様であるため、それらの違いと変化に着目した記録を残したいと考えたからである。